

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
小林大祐・山中千恵・島岡 哉			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
織田 暁子		仁愛大学 人間学部 コミュニケーション学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査演習 a	JNAa-100701-2	26人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

担当者ごとに3班に分かれて実習を進めたが、いずれの担当者の下でも学生が、調査テーマの決定から調査項目の検討、実査、分析、報告書作成というプロセスについて主体的に関わってくれた。試行錯誤しながらで効率が良かったとは必ずしも言えないが、苦労した分正確なデータを収集するという大変さと、「正確さ」そのもののある種の相対性について理解が深まったのではないかと感じている。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

福井の「聖地」・大学生の生活と意識・多様性とズレ

2. 調査の内容／概要：

「福井の『聖地』」では、福井の様々なスポットについて、「聖地」というキーワードから質的に調査分析し、「大学生の生活と意識」では、大学生のアルバイトを中心にした様々な行動や意識を質問紙調査によって調査分析し、「多様性とズレ」においては、福井における様々な人々に焦点を当てインタビュー調査によって、その背景にある「社会」に迫ろうとしている。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」については、それぞれの個別テーマに関わる人物を対象としており、「大学生の生活と意識」は仁愛大学人間学部コミュニケーション学科在学生の全数調査を意図している。

4. 主な調査項目：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」については、個別のテーマに基づいた項目が調査されているが、「大学生の生活と意識」ではアルバイト、世間体を気にする度合い、自分の容姿を中心に調査を行った。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」...インタビュー調査
「大学生の生活と意識」...集合法による質問紙調査

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」...8-9月に福井県下において、各学生が調査員として調査を行った。
「大学生の生活と意識」...9月末の学科ガイダンスを利用して、仁愛大学において行った。調査員は10名であった。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」については、学生個別に調査を行っているため、全体的な評価は出来ない。「大学生の生活と意識」においては、271名で回収率は72.8%となる。4年に欠席者が多いという問題はあったが、概ね問題ないとする。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

「福井の『聖地』」および「多様性とズレ」...インタビュー・データの質的分析および現地のフィールドワーク。
「大学生の生活と意識」...SPSSを用いた統計分析。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

「福井の『聖地』」...福井において身近な場所に、人々が込めている多様な意味について解き明かすことができた。
「多様性とズレ」...障害を持つ子の母親へのインタビューからは、どのような認知の枠組みによってこの障害を理解しようとしているかが示された。
「大学生の生活と意識」...世間体を気にしやすい人はどんな人なのか、について親の職業が関連するかどうか検討されたが、関連は示されなかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

2011年3月に刊行された。